

授業科目名・形態	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	白男川 尚・脇山 園恵	開講期	2年前期	単位数	1

【授業の主題】

ソーシャルワーカーとしての基本的価値観・知識・技術を、演習という形態を通して習得する。また、在宅福祉サービスの利用を望む相談の受付から支援計画の立案、サービスの実施とモニタリング作業、再アセスメントと事後評価、サービス開発までの一連の流れを体系的に学び、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し習得する。

【到達目標】

- 1) 演習を通じて「相談援助技術」に関する講義の内容をより深く理解し、身につけること。
- 2) 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養うこと。
- 3) 実習で体験したコミュニケーション場面と関連づけながら、事例検討により個人や家族、小グループへの基礎的な援助の技法を身につけることである。社会保障の概念や対象及びその理念を理解すること。

【授業計画・内容】

第1回 ブレーンストーミング法による意見交換 テーマ「バイスティック7原則について」

第2回 事例によるソーシャルワーク実践 援助の開始期 インテーク面接の進め方

第3回 事例によるソーシャルワーク実践 援助の開始期 インテークから信頼関係の樹立まで

第4回 事例によるソーシャルワーク実践 援助の開始期 問題把握からニーズの確定まで

第5回 事例によるソーシャルワーク実践

アセスメント～情報収集後の分析、利用者と環境の相互関係の調整～

第6回 事例によるソーシャルワーク実践

支援目標の設定 ～アセスメントから支援目標の設定まで～

第7回 事例によるソーシャルワーク実践 支援プログラム作成 支援プログラムの模擬作成

第8回 事例によるソーシャルワーク実践 ケア会議の進行とウィークリープラン

第9回 事例によるソーシャルワーク実践 記録の重要性

第10回 事例によるソーシャルワーク実践 モニタリング モニタリングのロールプレイ

第11回 事例によるソーシャルワーク実践 モニタリングと評価

第12回 事例によるソーシャルワーク実践 再アセスメントと支援強化や変更

第13回 事例によるソーシャルワーク実践 事後評価 支援強化や変更後についても考える

第14回 事例によるソーシャルワーク実践 地域課題の普遍化とサービス開発の視点

第15回 演習で学んだ成果のふりかえり(シェアリング)

【授業実施方法】 基本的には演習形式で行う。

【授業準備】 演習内容を踏まえ復習を中心に行うこと。

【主な関連する科目】「ソーシャルワーク論Ⅰ～Ⅵ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」

【教科書等】 日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版

【参考文献】 その都度紹介する。

【成績評価方法】 課題提出 20%、授業態度・出席状況 80%より総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする参加型授業形態なので積極性を発揮してもらいたい。